

夫婦ともに健康を保ち長寿を

88歳到達夫婦へ顕彰状

青 森県知事から88歳の米寿を迎えた夫婦へ顕彰状が届けられたことに伴い、町長が9月22日(月)に4夫婦を訪問して手渡しました。

平成26年度のおおもりシニアフェスティバルで顕彰されるものです。今年度町では4組の夫婦が受けました。

- 宮越兼雄・リシイ(向町上) ●長谷川榮・トシ(豊島)
- 福士茂三郎・ハナエ(薄市下) ●三和作太郎・愛子(若葉町)



町の環境美化推進に協力

中里高校応援会が奉仕活動

中 里高校発展のため、同校生徒の活動を支援する中里高校応援隊が、9月22日(月)なかどまりまつりのねぶた運行コースの清掃奉仕活動を行いました。

奉仕活動は、同応援隊が生徒・教員と共に町の環境美化推進に協力し、この活動を通して、同校の元気・活発さを地域に周知することを目的に開催されました。

この日は、1・2年生徒と教員、応援隊合わせて40人が活動しました。2班に分かれ、中央公民館とパルナスからスタートし、役場までの道路脇などのゴミをていねいに拾っていました。

また、生徒たちはねぶたで使用する予定だった応援隊が準備したTシャツを着用しながら、この活動に取り組みました。

参加した生徒は「春の奉仕活動が中止になったので、今回できてよかった。住民のみなさんが気持ちよく生活してもらえればいい」と活動の感想を述べました。



交通安全呼びかけ

富野保育所児童街頭監視

町 安全協会武田支部(支部長・田中進美)が、9月10日(水)武田診療所前で街頭監視を行いました。富野保育所児童14人とその保護者などが集まり、診療所前で道行く自動車や自転車の運転者へ「安全運転をお願いします」と呼びかけました。一方、ドライバーのみなさんも「はいわかりました。ご苦労様だね、がんばってね」と笑顔で声をかけていました。



上を目指し稽古に励む

中里誠心塾各大会で好成績

各大会で好成績を残す中里誠心塾。9月11日(木)この日も塾生たちは、厳しい稽古に励んでいました。

■塾生たちの試合結果

①第5回スポーツひのまるキッズ東北小学生柔道大会

(6月17日青森県武道館) 1年男女混合軽量級-23kg 優勝 佐井川友也(武田小) / 3年男女混合軽量級-30kg 2位 田中永喜(武田小) / 6年男子軽量級-50kg 優勝 片山雄心(武田小) / 6年女子軽量級-45kg 優勝 野上莉来奈(薄市小)

②第11回全国小学生学年別柔道大会青森県予選会(6月22日鶴田町体育センター) 6年男子50kg 2位 片山雄心 / 6年男子50kg超 3位 佐井川陽舜(武田小) / 6年女子45kg 優勝 野上莉来奈(8月17日盛岡市で開催された全国大会へ出場しベスト16の成績)

③第52回三船十段杯争奪柔道大会(9月7日岩手県久慈市) 団体戦 2位【野上莉来奈、片山雄心、加藤主税(中里小6)、葛西大悟(武田小6)、佐井川陽舜】

このうち、①の大会で見事3連覇、②の大会では全国大会に出場した野上莉来奈さんは、2つの大会について「3連覇への道は厳しかった。初戦から強い相手最後まで苦戦した。でも決勝まで集中して戦うことができた。全国大会はレベルの高さを感じた。これからもっと稽古して上を目指したい」と話していました。



陸上、硬式テニス優勝

第69回県民体育大会

下北地域を会場に行われた青森県民体育大会。当町は14競技に出場し、中でも陸上部が今年も優勝し、男子・女子・総合1位となり完全優勝となりました。一方、硬式テニスも、競り合いを制し、6年ぶりの優勝となりました。

8月27日(水)両団体が町長室を訪問し優勝の報告をしました。どちらも「来年もまた連覇したい。ただ、選手の確保に苦労した。若手や子どもたちの指導を今後とも力をいれていきたい」と話していました。

このほか今年の大会は、軟式野球とウエイトリフティングが2位に入る健闘もあり、町総合6位と昨年を上回る結果となりました。小野町長から「町では最高が5位であったと記憶している。それを越えるよう今後とも両団体には引っ張って行って欲しい」と激励しました。



夏の終わりの熱い戦い

第10回東日本小中学校相撲中泊大会

中里中学校相撲場で8月31日(日)、第10回東日本小中学校相撲中泊大会が行われました。天気にも恵まれたこの日は県内各地から選手が集まり、団体戦及び個人戦で日頃の稽古の成果を競い合いました。

小学生の部団体戦では連覇を逃しましたが、選手たちは「相手は強かった。稽古をがんばって、来年は絶対に優勝する」と決意を新たにしていました。

中泊道場所属選手の結果は次のとおりです。

■個人 小学校3年の部優勝 奈良昂、4年の部優勝 成田力道、5年の部2位 高山日那太
中学校1年の部3位 神歩武



交通死亡事故ゼロを目指して

交通安全母の会西北ブロック研修会

子どもと高齢者に安全な交通社会を目指して、9月12日(金)交通安全母の会西北ブロック研修会がパルナスで行われました。当町からも会員30人が参加し、会場でスタッフとしても活動しました。

西北ブロックの母の会会員118人が参加した研修会のオープニングは、中里幼稚園児が務め、鼓笛演奏を披露しました。

第1部は、主催者である青森県交通安全母の会連合会坂本会長が「交通死亡事故は年々減少しているがゼロではない。今後も事故減少に務めていきましょう」とあいさつ。

来賓のあいさつに続いて、金多豆蔵人形芝居が行われました。この日は交通安全をテーマにしたかけあい漫才で参加者と一緒に、交通安全の勉強を楽しみました。

昼のアトラクションとして、謎の美女軍団のみなさんがスコープ三味線を披露し、アンコールをもらう盛り上がりを見せました。

第2部では、「飲酒運転について」と題し、五所川原警察署金木分署桜庭交通係長による講話、活動事例として、中里中学校江良PTA会長がPTAでの取り組みや地域との連携について発表しました。最後は全体討議として、会員の確保対策など意見交換が行われました。



秋の全国交通安全運動の推進

五所川原地区交通安全協会・境谷定雄会長が来町

秋の全国交通安全運動の実施に伴って、五所川原地区交通安全協会の境谷定雄会長が、9月16日(火)に役場を訪れ、知事からの要請文を小野町長に伝達しました。

伝達では、境谷会長が「秋の全国交通安全運動」の強力な推進について、要請文を読み上げました。内容は「日没が早まるこの時期は交通事故が増える傾向があること」、「青森県反射材大作戦を続けて交通事故減少に取り組むこと」などをはじめ関係機関・団体・地域住民が一体となって運動を推進していただきたいというものです。これを受けて、町長は「我々も、関係者と協力し秋の交通安全運動に取り組んでいきたい」と答えていました。



登校を見守る

町内で街頭監視

9月21日～30日までの10日間、秋の全国交通安全運動が実施されることに伴い、小・中学校児童・生徒が通る交差点など町内5か所で街頭監視が行われました。

このうち中里小学校へ登校する児童たちが通る津軽中里駅前交差点では、関係者が見守る中、子どもたちが元気な声で「おはようございます、ご苦労様です」とあいさつしていました。



漁業への理解深める

小泊中1年が市場見学とサザエカレー

講義や実習を通して、地元産業である漁業に対する理解・興味を深めようと小泊中学校1年生が、9月24日(木)小泊漁協や市場で学習会を行いました。

始めに小泊漁協で地元で獲れる魚の学習を行いました。鱈ヶ沢漁港事務所職員から魚の種類、生態について講義を受け、目、鼻、耳、口はどこにあるかなど学びました。講義後も約半数の生徒が質問したり、熱心にメモをとる姿がありました。次に市場へ移動し、その日に水揚げされた本マグロなどで確認しました。

その後学校へ移動してからは、小泊漁協婦人部8人の指導のもと、サザエ入りカレーづくりが始まりました。途中タマネギを切っているとき涙を流す男子生徒もいて笑いを誘っていました。出来上がってからは、全員で試食。サザエの風味がきいたカレーを味わい、「おいしい、おいしい」とおかわりをする生徒もいました。



ザエやエビなどに触れる体験も行いました。続いて魚などの保存に使う氷を製造する施設の見学では、マイナス10℃の世界を体験し、寒さをこらえていました。

その後日本海漁火センターに移動して役場職員から、漁法やブランド化、海洋保護活動、後継者不足など説明を受けました。説明後は、学習した保護活動の体験として、海藻が生えるよう有機団子を漁港内に投入しました。

最後は文化について、小説津軽の像記念館での学習です。柳澤良知氏がボランティアガイドを務め、像の前で越野たけさんから聞いた話を伝えました。

小泊地域を学ぶ

中里中1年がふるさと学習

地域について学ぼうと中里中学校1年生65人が、9月2日(火)小泊地域を訪れ、漁業や地域の文化について学びました。

漁業の学習では、小泊漁港の荷さばき施設を見学しました。この日は幸運にも、100kgを越える本マグロが水揚げされ、生徒たちはその大きさに驚いていました。漁協職員の説明に対して「このマグロいくらですか。漁師は儲かりますか」など質問をしていました。マグロのほかにもブランド化されている「海峡メバル」や生きたサ

ザエやエビなどに触れる体験も行いました。続いて魚などの保存に使う氷を製造する施設の見学では、マイナス10℃の世界を体験し、寒さをこらえていました。

その後日本海漁火センターに移動して役場職員から、漁法やブランド化、海洋保護活動、後継者不足など説明を受けました。説明後は、学習した保護活動の体験として、海藻が生えるよう有機団子を漁港内に投入しました。

最後は文化について、小説津軽の像記念館での学習です。柳澤良知氏がボランティアガイドを務め、像の前で越野たけさんから聞いた話を伝えました。

西部クリーンセンターで体験学習

小泊小学校4年生がごみ処理を学ぶ

ゴミの減量やリサイクルの大切さを学んでもらおうと、町では「もったいない町民運動」の一つとして、小学校4年生向けに施設見学会を行っています。今年是要望のあった3校(中里、薄市、小泊)を対象に実施しました。

9月11日(木)には小泊小学校4年生が西部クリーンセンター(つがる市稲垣町)を訪れました。同校が見学会に参加するのは初めてのことです。ごみをクレーンで持ち上げる様子や、パッカー車からごみが投入される場所を、児童たちは興味津々といった表情で見学していました。

小泊小学校4年生はごみに関して学習したことをポスターにし、10月に行われる町民文化祭(小泊会場)で展示するそうです。



ケッパレ!! 薄市

内潟公民館で恒例の秋祭り開催

互いに支えあう明るいまち薄市をテーマに、内潟療護園が8月30日(土)に秋祭りを開催しました。当日は会場の内潟公民館に町民や同園関係施設の利用者ら約300人が集まりました。

ステージでは、薄市小学校3年生による音読、薄市・富野保育所園児によるお遊戯や荒馬、中里中学校吹奏楽部の演奏、地区の住民による芸能発表など、たくさんの催しが行われました。保育所園児たちは演技が終わった後、「いつまでも笑顔で、お元気でいてください」と観客に声をかけ、会場からは大きな拍手が送られていました。また、屋外には出店コーナーも設けられており、地域住民や親子連れで賑わいをみせていました。



地元出身者が集う

中泊のれそ〜れ祭り2014

ふるさと中泊町の食と文化を楽しみ、懐かしい人たちとの再会やのれそ飲んで、騒いで我らが中泊町にエールを送ろうと、8月31日(日)青森市にあるモルトン迎賓館で「中泊のれそ〜れ祭り2014」が行われました。祭りには、県内で活躍する約130人の町出身者らが参加。地元産本マグロやイカ刺、ブルーベリースイーツなどが用意され、旬の味覚を味わいました。また、町特産品の当たる抽選会、特産品販売コーナーでも楽しんでいました。ステージでは、津軽伝統芸能である金多豆蔵人形劇鑑賞が行われ、終始笑い声が響いていました。会場では、参加者同士久しぶりに会う人も多く、思い出話に盛り上がり、懐かしむ様子もみられました。主催者である「のれそ〜れ応援隊」隊長・松野ミツ氏は「私たちにできることを考え、中泊町を盛り上げていきたい、今後とも協力していきたい」と話していました。

町の発展・平和を祈り

戦没者追悼式

町戦没者追悼式が、9月4日(日)中央公民館近くの慰霊碑前で行われました。式には、遺族会や関係者ら約100人が追悼に訪れました。国歌斉唱、黙祷に続き、遺族会主催の慰霊祭が行われ、各代表者が玉串を捧げました。式辞では、小野町長が「戦後69年を経た今も忘れられない深い悲しみが残る。先人たちが築き上げた今日の平和と繁栄を手放さないよう努力する」と誓いました。続いて、県知事、県遺族会、中里遺族会代表が追悼の辞を述べました。最後は、参列者全員が慰霊碑に菊の花を献花し、祈りを捧げていました。



町児童生徒多数入賞

第36回日本教育書道会西北五書道展地区展入賞

イオンモールつがる柏で9月20日(土)～23日(火)第36回日本教育書道会西北五書道展地区展が行われ、町児童生徒が多数入賞しました。

■特別賞 中泊町長賞…中1 下山諒夏(梅堂支部)／中泊町議会議長賞…小4 山田華連(小泊支部)／中泊町教育長賞…小5 山田晃雅(小泊支部)／西北五地区連合会奨励賞…中3 長利凌也(武田教室)、呉竹賞…5才 佐々木とうむ(薄市教室)／小3 鍋田亜衣海(小泊支部)

■特選 小2 佐々木ちえり(薄市教室)、山田皇龍(小泊支部)／小3 田中さや(武田教室)、石川栞(福浦支部)、佐藤百華(福浦支部)／小4 成田未空(薄市教室)／小5 山下緋杏(福浦支部)／小5 川島心(福浦支部)／小6 石川采(福浦支部)、野上莉来奈(薄市教室)／中2 鍋田夕海美(小泊支部)／中3 大屋七海(薄市教室)

5団体が試作ニューを持ち寄る

新おもてなしグルメメニュー開発会議スタート

新おもてなしご当地グルメのメニューを開発するため、9月17日(水)日本海漁火センターで試食会が行われました。

この日は漁協関係者らのほか、プロデューサーのヒロ中田氏も出席。町内から飲食店など5団体が試作品を持ち寄り、イカの貝焼きみそ仕立て、しゃぶしゃぶ、釜飯などの料理が出ました。中田氏は「ランチは短時間での勝負。お客様を待たせないことも重要。新しい食べ方をどんどん考えて欲しい。デザート、火を使用した料理も必要になる」と伝えました。会議は毎月開催し、メニュー案をつめていきます。



中泊町おこし

シジミミソネーズ試食会

シジミの旨みや成分を生かした商品作りへ向けて、商標登録された「シジミミソネーズ」。9月14日(日)ふれあいセンターでその試食会が行われました。

医学博士吉田昭彦氏が監修したもので、いろいろな料理に使用できるといいます。シジミに含まれる栄養素は、認知症予防にも効果が期待できるそうです。同氏は地元出身の(株)東光通商(東京都八王子市)代表取締役・沖崎金光さんの恩師であり、その縁もあって試食会が開催されました。この日は、地元住民らが出席し、ヒラメのカルパッチョ、みそ汁、ラーメンのメニューで、津軽みそと八丁みその2つの味で食べ比べをしました。参加者は「みそにシジミのだしを加えると味に深みがでて濃くなる。自分好みに調整することもできる」と話していました。吉田氏は「互いにアイデアを提供し合い、良い商品を地元の人と共につくっていきたい」と開発への意欲を語りました。

学校給食でも地産地消

給食おもいやり隊が小泊小を訪問

町内でとれた食材を学校給食へ提供している「給食おもいやり隊」の佐藤イネ子さん、田中恵津子さん、葛西昭子さんが小泊小学校を訪れ、6年生児童と給食の時間を共にしました。訪問した8月29日(金)の献立はトマト、じゃがいも、なすを使った夏野菜カレー。トマトが苦手な児童も「これなら食べられる」と話し、完食していました。佐藤さんは、「生きるために食べ物はなくてはならないもの。誇りを持ってがんばっているの、皆さんも勉強をがんばってください」と思いを伝えました。児童たちは「楽しかったです。どんな材料が使われているか知ることができて良かったです」と話していました。



毛豆たくさん採れました

富野保育所児童が収穫体験

6月に種まきをした毛豆を収穫しようと、富野保育所児童16人と保護者6人が、9月17日(水)に野上健さん(上高根)の畑を訪れました。毛豆の種は五所川原農林高校から提供を受けたもので、子どもたちは説明のあと、ひとつひとつ収穫していました。作業の途中で児童のひとりが歌い出すと、あっという間に全員での合唱となり、周囲を笑わせていました。

茎がなかなか抜けないときは、数人で協力して引っ張り、子どもたちは袋いっぱいになるまで毛豆を集めました。招待した野上さんは「子どもたち自身で植えたものを収穫する楽しさを体験してもらえて良かった。毛豆を大好きになって欲しい。また、来年も続けたい」と話していました。